

大豆コンバインを用いたゴマの機械収穫技術

利用対象：耕種農家

目的：実需者からの生産拡大が求められている国産ゴマにおいて、土地利用型農業経営体を対象として収穫時間を大幅に削減可能な機械収穫技術を開発しました。

<本技術の内容>

☑開発した技術は、大豆コンバインを用い、最下蒴の褐変化が開始した時期（以下、蒴褐変初期）にオペレータ1名でゴマを蒴のまま収穫し、運搬車へ排出できる技術です（図1）。



図1. 大豆コンバインでのゴマの蒴による収穫・排出作業

左:収穫作業、中央:排出作業、右:コンバイン収穫後、排出された蒴

<本技術の効果>

- ☑蒴褐変初期に最適な機械設定で収穫することで、ゴマ穀粒の回収率は80-90%となります。
- ☑本技術による収穫作業時間は運搬車への排出作業を含め約70分/10aとなり、手刈が中心の収穫作業に比べ、作業時間を約7割削減できます（図2左）。
- ☑本技術を用いて収穫後に乾燥調製した穀粒品質（酸価、油分）は、手刈後に乾燥調製したものと同等となり、実需の基準値を満たしています（図2右）。

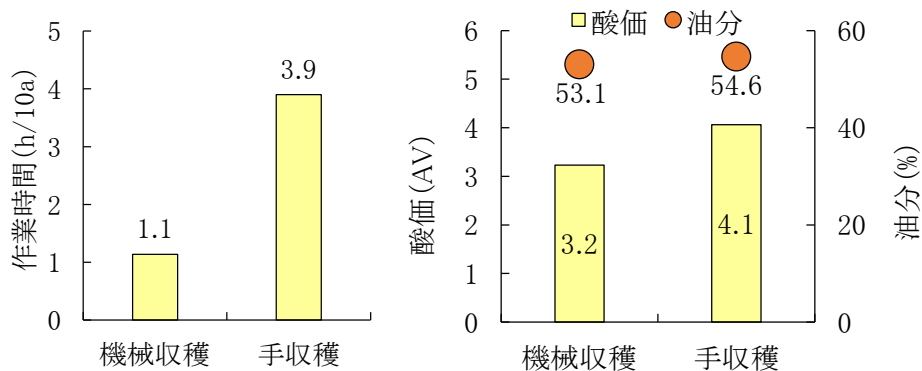


図3. 機械収穫と手収穫の作業時間（左）と穀粒品質（右）

<活用の留意点>

- ☑本技術を用いて機械収穫を円滑に行うためには、大豆コンバインに標準装備されていない一部の部品（合計23万円）を新たに購入する必要があります。
- ☑コンバイン収穫後には手収穫と同様に乾燥、脱粒、選別作業が必要となります。

お問い合わせ先

生産技術研究室 農産研究課 川原田直也 電話 0598-42-6359
中央農業改良普及センター 磯山繁幸 電話 0598-42-6323

参考になる資料

<http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm>